



会長に就任して2カ月が経って

会長 飯塚弘志

会長に就任して早2カ月を経過した。まさに月日の経つのも夢のうち。右も左もよく判らず、文字どおり右往、左往してきた。しかし、いつまでもそのようなことは許されません。身を引き締めて会務を遂行していかなければなりません。

まず、就任して驚いたことは、他団体に対しての挨拶、祝辞を述べなければならないことの多いことである。相手の活動内容をよく判っている場合はともかく、判らない場合はいささか困惑気味である。しかしこれも仕事のうち、やむを得ない。

平成11年度基本的活動方針が、3月の定時代議委員会で承認された。今年度はそれに則って事業を展開していく。

それらを具現化していくために、以下7つのプロジェクト委員会を設置して検討、対応していくこととした。

- 1) 介護保険プロジェクト委員会
- 2) 救急医療情報システムに関する検討委員会
- 3) 健康教育センターの機能に関する検討委員会
- 4) 少子化対策検討委員会
- 5) 総合的医療情報システムの構築にかかわるプロジェクト委員会
- 6) 北海道医師会総合政策研究機構(道医総研)設置のための検討委員会
- 7) 生命と倫理に関する検討委員会

問題は山積している。早急に対応しなければならない問題。できるだけ早い時期に解決しなければならない問題。将来を見据えて比較的長期にわたり対応していかなければならない問題。

それらの問題に適確に対応するため7つのプロジェクト委員会の設置が必要となった。

介護保険プロジェクト委員会は、本年10月から施行予定の要介護認定をする際の介護度の決定に影響を与える「かかりつけ医の意見書」の標準化をしておく必要があるため、7月までにその作業を終えることとなっている。

この10月から従来のキャプテンからパソコンに端末を替え、再構築した救急医療情報システムを立ち上げることとなっている。一番懸念されるのは、ハードを替えただけに過ぎない、機能しないシステムとなることである。前回の二の舞をしてはならない。そのため、医師会、行政、健康づくり財団の三者からなる委員会を設置し、十分に検討することとした。それが救急医療情報システムに関する検討委員会を設置した理由である。

3番目の健康教育センターの機能に関する検討委員会は、センターの機能を根本的に見直しをする必要があるとの認識で設置した。センターができてから24年経つが、その役割は十分に果たしてきた。

先人の創造性、苦勞に深く敬意を表するものであるが、現時点では種々の隘路も見えてきた。そこでセンターの在り方を徹底的に検討し、どのようにするか、年内にはその結論を出す予定としている。

少子化対策検討委員会は、医師会として何ができるか、何をすべきなのかを検討する。政府をはじめとして、種々の対策が出されているが、決め手が見えない。どのような結論が出されるか、未だ漠としたものであるが、現状の把握、分析をして、その要因を抽出し、対策をたてる。特に医師会としての対策をたてる必要性がある。

第5番目は総合的医療情報システムの構築にかかわるプロジェクト委員会である。

当会としてもインターネットにホームページを開設している。また、種々の付加価値情報を提供してきたところである。しかし、とてもシステムとは言えない。情報システムの全体像を構想し、次いで、どの部分のシステムを構築していかなければならないのか、あるいは何ができるか、どのようにすべきなのか、等々、情報システムのネットワーク構想をきちんと設定しておく必要がある。

次に、北海道医師会総合政策研究機構（道医総研）設置のための検討委員会である。

先の代議員会において、日医総研のようなものを道医にも設置することが必要ではなからうかとの主旨の発言があった。

私としても強く望むところであるが、設置の目的、具体的研究内容、スタッフ、予算などの問題がある。十分に検討し本当に機能するものでなければならぬ。ただ在るだけでは話にならない。

最後に生命と倫理に関する検討委員会である。先日、2例目の脳死体からの臓器移植が行われた。21世紀において、かなりの頻度実施されるものと思われる。また、最先端医療の遺伝子治療も

普及していくものと思われる。生命に直接かわる医師の集団組織としての医師会としても、当然それらがトラブルなく行われるよう、その施行の仕組みについても、十分に関与していく必要がある。

また、生命と一体の関係にある倫理についても対策をたてておく必要がある。生命倫理そのものの、さらに拡大して、情報開示にかかわる倫理、医療保険、医事紛争、税金問題等々、自浄的作用を強く求められるものについても十分に作用する状況を作っていくことが必要である。

以上7つのプロジェクト委員会を設置し活動していくこととした。

いずれの問題もなかなか厄介なものであるが、できるだけ設置の目的を達成できるよう活動していかなければならない。

常に想像力と創造力の2つの“力”をもって事を遂行していかなければならない。それには理事者および会員諸兄の協力がなければできぬことである。

「脱皮できない蛇は死ぬ。」死なないように是非とも脱皮をしていきたいものである。